

第 77 回理事会議事録

1. 日 時：2022 年 1 月 28 日（金）18 時 30 分～20 時 40 分
2. 議決方法：オンライン会議システム Zoom を使用した
3. 議事参加者：【理事 10 名】 鳩山勝郎、浅越ことみ、伊藤直彦、久保公人、齋藤陽子、寺本直志、橋本公二、柳澤彰子、山田和彦、吉田正
【監事 2 名】 関口修、正村祐一
【事務局 3 名】 高野英樹事務局長、大政哲人国際交流事業部長、仲村篤志競技会事業部長
(理事現在数：12 名、定足数 7 名、本人出席 10 名)

4. 議事の経過及び結果

鳩山会長代行を議長に、議題を逐一審議した。

第 1 号議案 第 76 回理事会議事録の承認について
議事録案を一部修正の上承認した。

第 2 号議案 会員の逝去について
以下の会員の逝去が報告された。
笹平久美子（154844）

第 3 号議案 正会員の申込みについて
以下の会友の入会申請が承認された。
堀口和義（166766）

第 4 号議案 2022 年度予算案について
鳩山会長代行より 2022 年度予算について以下の説明があった
12 月理事会では、早ければ 1 月理事会でコロナの行く末を推測し 2022 年度の収入額を見積りたいと考えていたが、1 月頭からのコロナの感染の急拡大があり、それが困難な状況である。1 月理事会では 2022 年度予算については 12 月理事会と同額の数字とし、コロナの状況を引き続き注視することとした。
2022 年度予算は、収入額の総額は 2021 年度予算比で 1,354 万円のマイナスとなる 14,676 万円、経費の総額は 2021 年度予算比で 1,344 万円のマイナス、トータルは 2021 年度予算比で 10 万円のマイナスである 584 万円の赤字予算となった。
検討の結果、2022 年度予算案を了承した。2 月以降にコロナの状況を見て、見直しを行うこととした。

第 5 号議案 2021 年度のセンター支援について

鳩山会長代行より 2021 年度のセンター支援について以下の提案があった。
2021 年度も JCBL はコロナの影響が続いているものの、経費削減と助成金の活用で黒字決算が期待できる状況にある。2021 年度決算が赤字にならない程度の規模で 2020 年度に引き続きセンターへの経済的支援を行うこととしたい。

支援の金額の内訳は、全体額の 50%を各センター均一の金額、全体額の 50%を 2021 年度の公認料の金額に比例とし、集客に苦戦しているセンターと公認料の金額が多いセンターとのバランスを図ることとしたい。

検討の結果、これを了承した。3 月の理事会で支援の総額を決定することとした。

第 6 号議案 アジア競技大会代表募集の件

橋本代表選抜委員長よりアジア競技大会のブリッジ選手の派遣人数は JOC より男子 2 名、女子 6 名の枠が与えられた旨報告された。同大会の代表選抜試合の募集要項が提出され、ミックス、レディースのトライアルの予選、決勝のおおよその 1 日のボード数、およびミックス、レディースのトライアルの開催日程について検討を行った。

採決を行った結果、ボード数についてはおおよその 1 日のボード数を 64 ボードとすること、トライアルの開催日程についてはミックスの決勝を行ったあとにレディース予選を行うことにそれぞれ決定した。

第 7 号議案 公認ディレクタ規則改定の件

寺本競技委員長より公認ディレクタ規則の改定について以下の説明があった。同規則の第 8 条の修正を行いたい。主旨は、公認ディレクタに対する処分、資格の失効について、従来の資格取消に加えて一時停止、厳重注意の選択肢を増やすこと、処分、資格の失効の決定者を従来の競技委員長から理事会に変更することである。

検討の結果、処分、資格失効の決定者を処分理由の如何に問わず全て理事会とすることで同規則の改定は承認された。

第 8 号議案 各委員会及び事業部報告

1.代表選抜委員会

橋本代表選抜委員長よりアジアカップの代表募集の申込状況が報告された。オープン、レディース、シニアの各代表チームおよびミックス 2 チームのトライアルの代表選抜試合への招待が承認された。

アジアカップオープン代表

加来浩、小池紀彰、田中陵華、寺本直志、古田一雄、横井大樹

同レディース代表

伊藤美登利、佐藤牧子、島崎彩子、高崎恵、西田奈津子、原澤沙依

同シニア代表

井野正行、今倉正史、大政哲人、ロバート・ゲラー、前田尚志、山田和彦

同ミックス代表選抜試合招待

横山純、岡野有紀子、胡文輝、杉野すみ子、佐藤春芳、渡辺法子

勝部俊宏、勝部雅子、宮国健次、宮国亜矢子、赤間馨介、大手瑠利

2. 競技委員会

寺本競技委員長より 1 月 5 日に開催された第 275 回競技委員会について報告があった。

3. 普及事業部

齋藤普及事業担当理事より 2022 年も新入会無料キャンペーンおよび紹介キャンペーンを実施する旨報告があった。

齋藤普及担当理事より JCBL の HP に掲載している新型コロナウイルス新規感染者の報告内容について確認があった。センターに参加した人が後日陽性になった場合に各センターの HP 上で行う公表の有無、公表内容の詳しさがセンターごとに異なるため、公認クラブ規則を改定し、各センターに一定のレベルの公表を求めていく方針を確認した。

4. 競技会事業部

山田競技会事業担当理事より競技会事業部活動状況および資格獲得者の報告があった。

山田競技会事業担当理事より、広報担当理事の新設が提案された。検討の結果、新設を行うこととし、柳澤理事を広報担当理事に指名した。広報の担当範囲は、普及に関する広報を普及事業部から切り離して受け持つことに加えて、報道対応、PR 活動の合計 3 つとした。

5. 国際交流事業部

吉田国際交流事業担当理事より 2021 年 12 月 22 日～28 日に開催された「2021 ZONE 6 INTERNET SELECTION TRIALS」について以下の報告があった。オープン、シニアの各日本代表はそれぞれ 2 位になり、2022 年 3 月 27 日からイタリアのサルソマジョーレで開催予定の世界選手権の出場権を獲得した。レディースは 5 位、ミックスは 7 位であった。しかし、コロナの感染拡大と帰国時の隔離期間のため、オープン、シニアともに世界選手権の出場を辞退した。

6. 法人・管理部

寺本法人・管理部担当理事より 12 月末時点の予算決算対照表、比較財務諸表、

月次収支実績、およびクラブ勘定の残高について以下の報告があった。
月次収支については、12月は約570万円の赤字であった。職員の賞与の支給月にあたること、2021年度後期日本リーグが1月開催であることが影響した。セクショナルの12月の公認料はコロナ以前の7~8割程度である。決算見込みについては、経費節減の効果と助成金の活用があり、依然として1千万円程度の黒字決算が見込める状況である。クラブ勘定の残高については問題がない。

第9号議案 その他の議案

1. 次回理事会開催について

次回理事会は2022年3月25日（金）18時30分よりオンラインにより開催する

2022年1月28日

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

第77回理事会

代表理事 鳩山 勝郎

監 事 関口 修

監 事 正村 祐一

議事録作成者 寺本直志